

第七回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」 「日本人の北米・中南米への移住」

＜「論文」部門 募集要項＞

主催：独立行政法人国際協力機構

JICA 横浜 海外移住資料館

後援：国際移住機関（国連 IOM）

駐日事務所

国際協力機構（JICA）は、日本人の海外移住の 150 年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として、2019 年に「JICA 海外移住論文」を創設しました。

第二回募集以降、海外移住の歴史に対してより関心のすそ野を広げるため、論文部門の他に「エッセイ・評論」部門を加えました。テーマについては第一回で募集した邦字新聞を活用した研究に限定せず、広く「日本人の北米・中南米への移住」として実施してきました。2025 年度の第六回募集では、計 35 件（論文 7 件、エッセイ・評論 28 件）の応募をいただき、論文部門では最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名、エッセイ・評論部門では最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名の授賞者を選考しました。

この度の第七回募集におきましては、国際移住機関（国連 IOM）駐日事務所による後援のもと、引き続き「日本人の北米・中南米への移住」に関する様々な研究結果およびエッセイ・評論を募集します。日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、移民研究のすそ野を広げるとともに、日本国内における外国人とのよりよい共生が目指されるなか、多文化共生など今日的な社会課題への気付きを得ることをねらいとして実施いたします。

広く多くの方々からのご応募をお待ちしています。

1. 論文部門

(1) 課題：「日本人の北米・中南米への移住に関する諸研究」

題目は自由に設定して下さい。北米・中南米等の邦字新聞を活用したものをお歓迎します。

文献や既存研究のレビューにとどまることなく、新規性のある発見が盛り込まれることを期待します。

(2) 言語：日本語

(3) 応募資格：年齢・職業・国籍不問

(4) 原稿の体裁：論文の応募原稿は①標題、②執筆者名、③目次、④キーワード（5 語程度）、⑤本文、⑥注、⑦引用文献リストで構成して下さい。本文の原稿字数は日本語 8,000 字～20,000 字（A4 版ワープロ）。

※論文の執筆要領については、別添参照のこと

800 字以内の要約を添付して下さい。

未発表のオリジナル論文（下記 2 参照）に限ります（原稿の著作権は当機

構に属します)。

2. 未発表のオリジナル論文・作品について

同一の内容が国内外の印刷物・電子媒体に投稿・掲載されていないこと、および学会等の大会で発表していないものを未発表とみなします。ただし、未刊行でウェブ等でも未公開の学位論文等、過去に応募者自身が書いた論文・作品の一部を使用する場合には、以前に書いた・発表したことを明示し、適切な引用や注釈を付してください。

すでに刊行された論文等をもとにして書かれた内容の論文・作品の場合には、新たな知見や視点が加わって再構成されたものであることに留意してください。その場合には、既刊行の論文等と応募論文・作品の関係について説明した文書を添付してください。

なお、応募された論文・作品が未発表原稿に該当するか否かの判定は、審査委員会にて行います。

3. 審査基準

以下の観点から審査いたします。

【論文部門】

- ・ 課題設定：明確な問題意識に基づく的確な課題設定がされており、日本人の海外移住の歴史に対する関心を広めることに寄与していること。
- ・ 先行研究の取り扱い：関係する先行研究を幅広く十分に検討・吟味していること。
- ・ 史・資料の取り扱い：関係する史・資料が多角的に検討され、的確に解釈されていること。また、北米・中南米地域等で過去に発行された邦字新聞を活用した内容である場合は評価する。
- ・ 構成・論旨・結論：設定した課題に対し、的確な論文構成により整合性・一貫性のある論理展開を以て的確な結論を導いていること。
- ・ 独創性、先進性：「海外移住」、「日系社会連携」に関連する JICA の取り組みに対して新たな視点を提供するものであること。また、歴史的に貴重な資料である邦字新聞の収集（発見）、保管、活用を促進することに資する内容である場合は評価する。

4. 応募様式

- ・ A4 版縦向き用紙に横書き、36 文字×30 行、フォントサイズ 12 ポイントとしてください。
- ・ Word 等のテキストデータで提出してください。
- ・ 目次、統計表・グラフ、注記、参考文献等は本文の文字数には含めません。
- ・ 別紙に氏名（ふりがな）、生年月日、年齢、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス）、勤務先/学校名・住所、職業、本募集を知った媒体をそれぞれ記載してください（勤務先/学校名、職業、肩書等は複数書くことも可）。

5. 応募先 E-mail : article@jadesas.or.jp

メールのみでの受付になります。郵送や持参による提出は受付けておりませんのでご注意ください。

上記①別紙、②本文要約、③応募原稿の順にまとめて提出してください。

6. 応募締切 2026年6月30日（火）日本時間23:59必着

7. 賞および賞品

論文部門：最優秀賞（1名）賞状および賞金/研究奨励金 50万円
優秀賞（若干名）賞状および賞金 5万円

8. 審査委員 海外移住資料館学術委員等の有識者

9. 問合せ先

JICA 横浜 海外移住資料館 論文事務局（公益財団法人海外日系人協会内）
Tel : 045-211-1786 Fax:045-211-1781 E-mail : article@jadesas.or.jp

10. 審査発表

時期：2026年10月に当館HP上で結果を発表し、後日授賞式を行う予定
論文部門受賞作：当館HPに掲載する予定

11. 留意事項

- (1) JICA 横浜 海外移住資料館では中南米諸国で発行された邦字新聞を中心にこれらの収集・保存を進めております。したがって、今回のテーマは広く「日本人の北米・中南米への移住」としていますが、中南米諸国等で発行された邦字新聞を用いた作品の応募を歓迎します。
- (2) 応募いただいた個人情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。ただし、当機構との間で機密保持契約を締結した第三者に対し、この論文に関する業務を委託する場合を除きます。その使途としては、当論文の受賞通知および JICA が行う本論文に関連する事業の案内ののみといたします。
- (3) 受賞者の方々には受賞作品に関する講演等をお願いすることがあります。

※過去の受賞作品は以下のリンクよりご覧下さい。

第六回：https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/whatsnew/2025/1574986_67190.html

第五回：https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/whatsnew/2024/1552401_52759.html

第四回：<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/whatsnew/2023/20231016.html>

第三回：<https://www.jica.go.jp/Resource/jomm/whatsnew/2022/22110801.html>

第二回：<https://www.jica.go.jp/Resource/jomm/whatsnew/2021/211102.html>

第一回：<https://www.jica.go.jp/Resource/yokohama/topics/2020/200618.html>

以上

別添：論文執筆要領

第七回 JICA 海外移住「論文」執筆要領

1. 論文の体裁：

論文の応募原稿は①標題、②執筆者名、③目次、④キーワード（5語程度）、⑤本文、⑥注、⑦引用文献リスト、で構成される。本文の原稿字数は日本語8,000字～20,000字（A4版ワープロ）とする。

2. 表記

日本語表記は常用漢字、現代かなづかい、数字（年号・月日等）はアラビア数字（半角）を用いる。年号は西暦を用いるが、必要に応じて元号を加えることも可【例：1900（明治33）年】。アルファベットによる人名表記は、論文等の使用言語にかかわらず、名、姓の順で記し（名、姓とも、先頭の文字は大文字、その他は小文字）、頭文字は大文字表記とする。

例：George W. Bush

※タイトルに使用する記号については、表記を統一する場合があります。

3. 注および引用文献の書式

（1）注と引用文献リストは、注、引用文献リストの順で別立てにする。注のなかで言及された文献も引用文献リストに含めること。

（2）注は、論文全体で通し番号をつける。本文中の注番号は、半角の数字で記す。
ワードの脚注機能（文末注）を使う。

例：……と報じられている²。

（3）引用文献を本文の中で表示する場合、カッコ（）のなかに著者（編著の場合は編者）の姓、半角スペース、発行年、コロン、引用ページを記す。ただし、本文中に著者名（編者名）が書かれている場合は、著者名（編者名）は省略する。また、同一出典の引用が続く場合は、ページのみを記す。同一著者による文献が一冊の場合は出版年を繰り返して表記しない。二冊以上ある場合は、区別のために出版年を、毎回、表記する。

例：（秦：211—215）（秦1995：211—215）

（4）引用文献リストは、著者（姓）の50音順またはアルファベット順で配列する。

ただし、同一著者の文献が複数ある場合は、刊行年次順に配列する。欧文文献については、見出しどなる著者ないし編者のみ、姓、コンマ、名の順で記す。共著・共編の場合、2番目以降の著者・編者は名、姓の順で記す。編著の編者は、単編の場合は、（ed.）、共編の場合は、（eds.）で表記する。

例：Bean, Frank D., Barry Edmonston and Fefferey S. Passel (eds.)

1990 *Undocumented Migration to the United States*. Washington: Urban

Institute Press.

(5) 引用文献リスト（単行本の場合）

著者、発行年、題名（『　』に入る）、出版地、出版社の順で記す。欧文書名の場合は、書名は、イタリック体で表記する。

例：綾部恒雄編 1982 『アメリカ民族文化の研究—エスニシティとアイデンティティ』東京：弘文堂。

Pitkin, W. B. 1921 *Must We Fight Japan?* New York: Century Publishing Co.

(6) 引用文献リスト（論文の場合）

- a. 雑誌論文の場合、著者、刊行年、標題、（翻訳の場合、翻訳者名）、収録雑誌名、巻号番号[例：12(4)]、ページ番号[例：55-60]、（必要に応じて雑誌の出版地および出版社）を記す。
- b. 単行本に収録された論文の場合、著者、刊行年、標題、（翻訳の場合、翻訳者名）、収録書の編者、書名、ページ番号[例：55-60]、出版地および出版社を記す。欧文の場合、収録書を *in* で指示し、編者名は、名、姓、の順で記す。
- c. 日本語の論文の場合、論文名は「　」、収録書（雑誌）名は『　』で括る。
- d. 欧文論文の場合、論文標題はローマン体で記し、ダブル・クオテーション・マーク（“ ”）で括る。収録書（雑誌）名はイタリック体で記す。論文、書名（雑誌名）は、いずれも各語の先頭の文字のみを大文字で、その他は小文字で記す。

例：水谷憲一 1999 「1917年移民法審議における日本人移民問題、1911-1917年—帰化不能外国人入国禁止条項の帰趨をめぐって—」『アメリカ史研究』22、51-67。

Wakatsuki, Yasuo. 1978 "Japanese Emigration to the United States, 1866-1924: A Monograph," *Perspectives in American History* 12, 497-498.

前山隆 2002 「1920年代ブラジル知識人のアジア人種観」柳田利夫編『ラテンアメリカの日系人—国家とエスニシティ』東京：慶應義塾大学出版会、1-40。

Befu, Harumi. 2000 "Globalization as Human Dispersal: From the Perspective of Japan," in J.S. Eades, Tom Gill and Harumi Befu (eds.)

Globalization and Social Change in Contemporary Japan. Melbourne: Trans Pacific Press, 17-40.

(7) 引用文献リスト（新聞の場合）

新聞の引用については、論文の場合の表記方法に準ずる。ただし、新聞名、年月日、朝夕刊の別、版、面、（必要に応じて新聞出版地）を明記する。署名記事の場合は、新聞名の前に記者名を記す。

(8) 電子文献 (CD - ROM 等)・オンライン、マイクロフィルム文献等の引用

- a. 文献・オンライン、マイクロフィルム文献等については、単行本、雑誌の表記方法に準ずる。ただし、CD - ROM、マイクロフィルム、マイクロフィッシュであることを明記する。
- b. オンライン文献の標題情報は、単行本、雑誌の表記方法に準ずる。ただし、最後に閲覧した年月日および URL を明記する。
- c. 公文書館等から特定資料を入手した場合は、その旨、明記する。

4. 図表および写真

図表および写真は「図 1」「表 1」「写真 1」の形式で通し番号をつけ、キャプションを記す。

5. 版権等

文献の引用に著作権・版権所有者の許可を要する場合、あるいは、図版ないし写真を掲載するために版権の取得を要する場合は、原則として寄稿者が手続きをし、その費用を負担する。

以上